

く せ ん 泉 薫

学校の目標
社会の変化に自ら対応でき、豊かな心を持ち、表現力豊かな国際人を目指し、次のような子どもを育成する。
・よく考え、進んで学習する子ども
・いつも元気で、じょうぶな子ども
・こころ豊かで、やさしい子ども

六年生のがんばり

副校長 中村正人

新年度が始まり、およそ一か月がたとうとしております。児童は新しい学年で新しい生活を過ごし、時間の経過とともにその新しい生活も日常の生活になりつつあります。

本校の「日常の生活」であったものの一つに朝の挨拶活動があります。登校時間に校長と計画委員の児童が正門に立ち、毎朝、登校してくる児童に挨拶をしていました。校長も挨拶はとても大切にしており、入学式でも入学してくる一年生に対し、挨拶の大切さを話すほどです。

ところが昨年の三月からおよそ三か月もの間、新型コロナウイルス感染症拡大防止策の一環として本校でも臨時休校を実施しました。休校明けもマスクの着用等、人と人の接触することに制限がかかり、いつの間にか、気持ちよく挨拶をすることができていた矢口小学校の児童も、少なからずその影響を受け、休校が明けてもしばらくの間、気持ちよく挨拶することができなくなっていました。

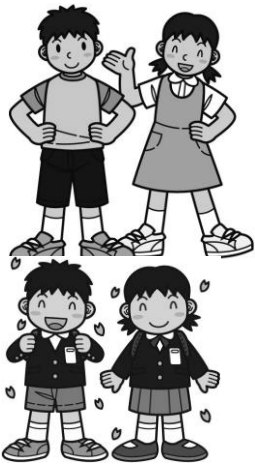
そのような中、ひとつの変化がありました。例年、計画委員会の児童が輪番で正門近くに立ち、挨拶を行

っています。その様子を見て自分にも何かできないかと、昨年の十一月頃から現六年生の児童が五年生のときに自主的に挨拶運動を始めたのです。校門に立つ五年生は、ただ挨拶をするだけにはとどまらず、怪我をして松葉づえで登校する児童がいれば、靴箱まで付き添ったり、忘れ物を届けに来た保護者が入れば教室まで忘れ物を届けに行ったりするなど、その活躍ぶりを見張るものがありました。

その自主活動は年度が改まって六年生になっても変わることはなく、靴を履き替えるのに時間がかかる一年生に対してもとても優しく接しています。

子どもであれば、自分の頑張りを認めてほしいという思いがあってもおかしくないのに、なぜ続けられるのか不思議に思うことがあります。継続できる理由のひとつに、同じ学年に友達の頑張りを認められる目があるのではないかと考えています。一生懸命に相手のことを考えて行動すれば、自然に認められるからこそ、自分の時間を削ってこの活動が続けているのだと感じています。

最高学年になり、委員会活動やクラブ活動、縦割り班活動の準備などもあり忙しい毎日をごす六年生ですが、一生懸命に学校の代表として活動しようとするその気持ちがとても嬉しいですし、頼もしく思っています。



教職員の紹介

(巡回指導教員)

葛生 裕子・平嶋 須磨子・久米 広晃

高濱 裕子・折原 有美・盛口 雄貴・今部 洋介

(ALT)

Samora Smith (サモラ・スミス)

(読書学習司書) 五月一日着任

夏目 温子

登校時間の変更について

大田区教育委員会では、限りある時間の中でゆとりをもって子どもたちに寄り添い、効果的で質の高い教育活動を行う時間を確保するため、「大田区立学校における働き方改革推進プラン」を策定しました。

本校もこの働き方改革推進プランを基に、児童の登校時間を見直し、教員の勤務時間(八時十五分から十六時四十五分)に合わせ、五月六日(木)より登校時間を八時十五分から八時二十五分とさせていただきますので、よろしくお願いたします。

開校一三〇周年記念 大運動会について

新型コロナウイルス感染症対応のため、今年度は次のようにいたします。

五月二八日(金) 児童のみの開催(全校児童合同)

五月二九日(土) 競技・表現の保護者公開(分散形式) 詳細につきましては、運動会のお知らせを発行します。

「きまりを守ろう」生活指導部

五百人を超える集団生活は初めてという一年生から、学校のことなら何でも知っている六年生までが、仲良く元気に新学期をスタートさせました。

集団生活が安全で気持ちよく過ごせるように守ってほしいきまりが学校にはあります。生活のきまり、授業のきまり、健康や安全のきまり、給食のきまり、清掃のきまり、休み時間のきまりなど集団生活ゆえにたくさんの内容があります。

今月は、一つ一つのきまりを確認する月です。子どもたちには「よい子の一日」を配布しています。保護者には「矢口スタンダード」にてお知らせしています。ご家庭でもそれらをお子さんと一緒に読んで、ご確認ください。